

土木学会四国支部 『土木紀行』 No.16 (香川県)

～ 高松シンボルタワー ～

高松市が瀬戸内海に面する港町であることから「瀬戸の都」として、高松港玉藻地区東部ウォーターフロントにあたる浜ノ町の旧・高松貨物駅跡地を再開発している。それがサンポート高松である(図1)。

高松シンボルタワーは、サンポート高松の中核を担う施設として位置づけられるもので、民間の業務・商業機能やアーティストによるライブ、コンサートの開催から最先端の学術会議の開催といった幅広いコンベンション機能など多様な機能を備えた、香川県・高松市のシンボルとなる交流拠点である。



図1 サンポート高松周辺図^[1]

高松シンボルタワーは高層のタワー棟と低層のホール棟の2棟で構成される。西側に民間のオフィスと情報文化関連施設を中心とした地上30階のタワー棟を、東側にファッション・レストランなどの民間の商業施設やイベントを開催するコンベンション施設を中心とした地上7階のホール棟を配置している(図2)。ちなみに、タワー棟は四国四県に建設されている超高層ビルの中では最高層の建物である。

タワー棟



図2 高松シンボルタワー (南側から)

ホール棟



図3 高松シンボルタワー(東側から)

この高松シンボルタワーを含めたサンポート高松の景観写真に対して、香川大学工学部の10名の学生に、SD法を用いたアンケートによる感性評価を実施した。SD法とは対のワードを尺度として用い、イメージを定量的に評価する手法である。景観の感性評価に使用した写真は、“美しい香川づくり 香川県景観形成指針” p.9に掲載されている、サンポー

ト高松の北東側から高松シンボルタワーを撮影した写真である。SD法による評価結果を図4に示す。

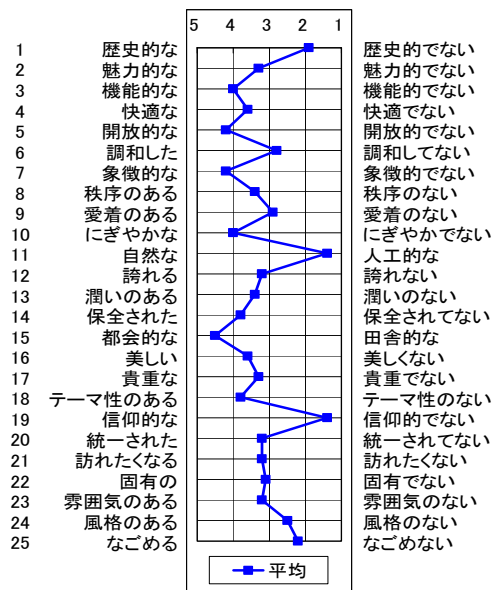


図4 SD法による評価結果

図4より、香川大学工学部の学生(香川県に住んでいる若い人)は、高松シンボルタワーを含んだ景観に対して「都会的」で「開放的」で「象徴的」で「にぎやか」で「機能的」で「人工的」な印象を持っていることが分かる。「機能的」「象徴的」「にぎやか」というワードが高く評価されることから、前述した高松シンボルタワーの在り方と香川に住んでいる若い人が高松シンボルタワーに持っている感性が合致しており、高松シンボルタワーを含んだサンポート高松は地域を象徴するランドマークとして、都市的な景観要素を担っていることが分かる。

「開放的」

海上から眺めると、海辺に高層ビルがそびえたつ景観となっており、その風景が評価に繋がっていると考えられる。なお、ビルの最上階は**無料**展望台になっており、ここから瀬戸内海および高松市街を一望でき、夜景も一見の価値があるかも。






図5 展望台の雰囲気 図6 展望台からの眺め

「都会的」

四国地方最高層を誇れるほどの高さで周辺の整備された様子が都会的であるとの評価につながっていると考えられる。さらに、夜間はライトアップが施され、青色発光ダイオードで彩られたイルミネーションが、より一層都会感を演出している。




図7 夜の高松シンボルタワー

皆さんはどのように感じますか？高松シンボルタワーに是非足を運んでいただき、サンポート高松の景観を眺めてみてください。

参考 URL

- [1] サンポート高松 on the Web : <http://www.sunport.or.jp/guidance/index.htm> 情報入手日:2008/06/19
- [2] 高松シンボルタワー : <http://www.symboltower.com> 情報入手日:2008/06/19
- [3] シンボルタワー開発株式会社 : <http://www.symboltower.co.jp> 情報入手日:2008/06/19
- [4] 香川県景観形成指針 : <http://www.pref.kagawa.jp/toshikei/keikaku/keikan/> 情報入手日:2008/06/19